

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	ミュージカル
----	----	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分とB区分の両方
------	------------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしやおべらしあたーこんにやくざ 有限会社オペラシアターこんにやく座		
代表者職・氏名	代表取締役 萩 京子		
制作団体所在地	〒 214-0021 神奈川県川崎市多摩区宿河原7-14-1		
電話番号	044-930-1720	FAX番号	044-930-1721
ふりがな 公演団体名	おべらしあたーこんにやくざ オペラシアターこんにやく座		
代表者職・氏名	代表取締役 萩 京子		
公演団体所在地	〒 214-0021 神奈川県川崎市多摩区宿河原7-14-1		
制作団体 設立年月	1988年 6月 法人設立 (1971年 4月 団体創立)		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 萩京子 取締役 大石哲史	音楽監督・座付作曲家/萩京子、歌役者37名、制作6名、事務2名。加入条件:団体の活動に全面的に参加できること。歌役者はオーディションを、制作や事務は面接を行なう。	
事務体制の担当	他の業務と兼任	本事業担当者名	土居 麦
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	土居 麦

<p>制作団体沿革</p>	<p>1966年に東京芸術大学に発足した「こんにやく体操クラブ」を母体として、1971年、オペラ小劇場こんにやく座創立。日本においてオペラを普及させるために欠くことの出来ない条件として、日本語の明瞭な歌唱表現を追求しながら、小・中・高校生を主な対象とした全国巡回公演を開始。1985年4月にオペラシアターこんにやく座と改名。1988年6月、有限会社オペラシアターこんにやく座設立。創立以来、林光(故人)、萩京子作曲のオリジナルオペラを数多く創作、上演している。活動は国内に留まらず、過去7ツアー延べ19カ国の海外公演も行なっている。</p> <p>1989年、ジローオペラ賞特別賞、文化庁芸術祭賞、音楽之友社賞受賞。1997年、山本安英の会記念基金賞、三菱信託音楽賞受賞。2000年、『ロはロボットのロ』の成果により、東京都教育委員会優秀賞、(社)日本演劇協会賞、(財)都民演劇賞の3賞受賞。2014年、小泉文夫音楽賞受賞。</p> <p>1998年より継続して文化庁の現・文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)に採択される。また本巡回公演事業に2003年より継続し採択されている。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>2011年度から2020年度までの10年間における学校公演は、小学校999ステージ(344千人)、中学校24ステージ(10千人)、高校200ステージ(132千人)、その他(中学高校一貫校、幼稚園保育園、特別支援学校など)111ステージ(44千人)、合わせて1,334ステージ実施。</p> <p>オペラ『森は生きている』は1992年初演以来、おもに小学校学校公演などで1,214ステージを行い、延べ561千人の観客にご覧いただいている。</p>		
<p>特別支援学校における公演実績</p>	<p>1984年～2020年までに計30ステージ、約4200名の児童生徒が鑑賞している。</p> <p>作品は『森は生きている』、『ロはロボットのロ』、『ピノッキオ』など。</p> <p>その他コンサート企画などの依頼を受け、実施している。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>A</p>	<p>申請する演目のチラシパンフレット等</p> <p>申請する演目のDVDまたはWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>有</p> <p>有</p> <p>DVDを提出いたします</p> <p>ID: <input type="text"/></p> <p>PW: <input type="text"/></p>
<p>Aの提出が困難な場合</p>	<p>今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p><input type="text"/></p> <p><input type="text"/></p> <p>ID: <input type="text"/></p> <p>PW: <input type="text"/></p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 オペラシアターこんにゃく座】

対象	○	小学生(低学年)	-	中学生		
	○	小学生(中学年)				
	○	小学生(高学年)				
企画名	オペラ『森は生きている』					
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	オペラ『森は生きている』 原作:サムイル・マルシャーク(湯浅芳子訳による) / 作曲: 林光 台本: 林光 演出: 眞鍋卓嗣 / 振付: 白神ももこ 公演時間(95 分)					
著作権		制作団体が所有	○	制作団体以外が所有する事項が含まれる	取得済	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	オペラ『森は生きている』は1992年の初演以来30年に渡り、オペラシアターこんにゃく座の代表レパートリーとして全国の小中学校、高校の芸術鑑賞行事ほか、公文協や各地実行委員会、鑑賞団体などで、およそ1200公演を重ね、子どもから大人まで幅広い年齢層の観客に愛されてきました。【厚生省 中央児童福祉審議会推薦 平成10年度推薦文化財】 歌い手12人が一月から十二月まで「月の精」を演じながら、娘、女王、兵士、博士など他の役も担い、一人二役以上を歌い演じます。オーケストラのように重層的で豊かな音楽をピアノの演奏が支え、歌役者のアンサンブルが細やかに、また迫力ある場面の展開を演出しています。「十二月の精」と人間たちが織りなすドラマは、ファンタジーでありながら、自然の雄大さと人間の学びを描いた、示唆に富んだ楽しいオペラとなっています。 ～ものがたり～ 新しい年を迎える大晦日、わがままな女王が四月に咲くマツユキ草がましいと言い出したために、国中は大騒ぎ。ほうびの金貨に目がくらむ継母のいっつけで、マツユキ草を採ってくるようにと一人の娘が真つ暗な森に追いやられてしまいます。そこでは十二月(じゅうにつき)の精たちがたき火を囲んで新年を迎える儀式の最中でした。娘の話聞いた四月の精は、他の月たちに頼んで一時間だけ「時」をゆずってもらいます。娘はマツユキ草を手に入れますが、それを渡された女王は、自らマツユキ草を摘むために吹雪の森へと出かけしていきます。しかし、そこで待ち受けていたものは…。					
演目選択理由	1954年、俳優座・こどもの劇場で「森は生きている」は日本初演されました。その劇中歌を手がけた若き林光は、子どもたちが「十二月(じゅうにつき)の歌」を口ずさみながら帰る姿を見て、作曲という仕事を一生続ける決意をかためたと語ります。オペラ『森は生きている』は、戦後の鑑賞文化、特に子どもの鑑賞機会を大切に、豊かにしてきた本流を継ぐ演目です。2021年2月、この「森は生きている」が新演出版として生まれ変わりました。4回目となる新しい装いに、作品の本質は新たな角度で「今」を照射するでしょう。劇団俳優座所属の気鋭の演出家、眞鍋卓嗣氏により、日本演劇界の歴史をも通底に含む作品の魅力が、現代に継がれていくことを証明したいと思います。 ロシア民話を基にした本作は、自然の壮大な美しさ、その自然とともに生きる人間の智慧が、彩り豊かな音楽とともに描かれています。自然の理と対峙する登場人物の姿を通して、子どもたちが自身ならどうするかと思いを重ねる力を、ワークショップや本公演を通じて育み、鑑賞後の学校生活においても本事業の体験が一つの指標となることを願っています。					
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	本公演において全校児童生徒に劇に参加してもらいます。 1/「森へ向かうソリの歌」を歌う場面で、出演者と一緒に演じながら歌います。 2/事前にマツユキ草を児童生徒1本ずつ工作で作ってもらい、マツユキ草が咲く場面で一斉に掲げ、体育館いっぴいの花の野原を演出します。娘役がその野原を歩きながら、子どもたちからマツユキ草を摘んでいきます。 3/アンコール曲として、劇中で歌われる「十二月の歌」を一緒に歌います。 学校の希望により、仕込みバラシの見学や、給食時間を一緒に過ごす工夫をします。					
出演者	沢井栄次、大久保哲、花島春枝、泉篤史、冬木理紗、泉まどか、飯野薫、鈴木あかね、齊藤路都、熊谷みさと、大石哲史、(以上オペラシアターこんにゃく座歌役者)、佐山陽規(フリー)、榎原紀保子(ピアノ・フリー) ※経歴別紙参照下さい(②メンバー表)					
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 13 名 スタッフ: 6 名 合計: 19 名		機材等 運搬方法		積載量: 4/2 t 車長: 8.4/6.5 m 台数: 2 台	

【公演団体名 オペラシアターこんにやく座 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間			4 時間程度
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～12時	13時15分～14時50分	10分	15時～17時	17時
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		450名			
	本公演		450名			
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>事前に劇中歌の楽譜と音源を渡し、音楽の授業などで練習、また校内放送などで曲に親しんでいただきます。当日は、本公演で共演する場面の指導を中心に行ないます。</p> <p>1/劇団紹介をしつつ、劇団名の由来となっている「こんにやく体操」を行ないます。</p> <p>2/「オペラ」とはどのようなものか、“演劇”と“オペラやミュージカル”の違いは何か、実演をまじえて説明します。</p> <p>3/本公演で児童生徒に参加してもらおう場面が、物語の中でどのような場面なのか、またどのように出演するかなどの説明と、実際に体を動かしながら練習を行ないます。</p>					
ワークショップ 実施形態の意図	※別添あり(別添②シート)					
特別支援学校での 実施における工夫点	<p>上記と変更なく実施することが可能ですが、事前打ち合わせで学校との相談の上、子どもたちの習熟レベルに合わせて対処し、やりかたを決めていきたいと思えます。</p> <p>基本的な考え方として、特別支援学校(学級)に在籍する子どもたちにも普通学級の子どもたちと同様に芸術に触れる機会を提供できるように工夫していきます。</p>					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

本事業への申請理由

【公演団体名

オペラシアターこんにやく座

】

①本事業に対する取り組み姿勢

オペラシアターこんにやく座は、創立以来、〈新しい日本のオペラの創造と普及〉という理念を持ち、レパートリーを増やし、学校公演を行なってきました。「オペラ」という手法で舞台芸術の多様性を表現するなかで、豊かな想像力と感受性を持つ子どもたちに、親しみを持って舞台を楽しんでもらう目的から、日本語の歌唱方法、そして演劇と音楽両面を楽しめる作品作りを追究してきました。年代を問わず鑑賞の機会を共有し、感想や意見を交わすことが、さまざまな価値観を認め合う社会につながると信じています。

しかし子どもたちが舞台芸術に触れる機会は、学校鑑賞の縮小化に伴い、限られたものになってきています。鑑賞行事を取りやめた学校、また行事を確保していたとしても、演目の選択肢の少なさを課題として抱えている学校が数多くあるのが現実です。そうした情勢のなか、どの地域であっても、児童数の多寡に関わらず、鑑賞の機会を公平に提供する本事業の趣旨は、前述した私たちの理念に大いに適うところでもあります。

こんにやく座は2003年から本事業に携わっていますが、ワークショップを経て本公演に臨むステップが、鑑賞の機会をより有意義なものへと飛躍させ、学校教育の一環としての性格を高めていることを確信しています。教師と児童生徒が普段過ごす時間を、第三者であるワーク講師や出演者が共有することで、新たな関係性が生まれ、多面的なコミュニケーションの機会を提供することも一つの目的です。そして何より、児童生徒がプロの実演家と舞台で共演する目的を持ち、その過程に立ち会うことで、子どもたちの緊張や興奮、喜びといった表情一つ一つの変化を彼らの成長の発露と感じ、本公演での成果につなげていくことを本事業の使命と心がけています。

子どもたちが心待ちにする本公演で、普段使い慣れた体育館を一日だけのオペラハウスへと変えます。子どもたちに鑑賞の機会が日常生活のすぐ近くにあるという意識を持ってもらうと同時に、その体育館が特別な空間に生まれ変わったことに対する驚きと発見が、子どもたちの創意工夫の精神を養い、舞台芸術への興味、関心を高めてもらうことを願います。本事業の体験を通じ、子どもたちが将来、自らの意思で劇場へと足を運び、鑑賞を楽しむ観客となることを、そしてこうした観客の育みこそ日本の豊かな社会への発展となることに希望を寄せ、その第一歩となる本事業に積極的に取り組んでいきます。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

実施校にはワークショップ前にも資料の送付や電話での補足説明など、ご担当の先生をはじめ、校長・教頭先生などとも本事業の趣旨をまず確認し合い、単なる鑑賞機会に留めないように、ご理解、協力いただけるよう計っています。その際、私たちから鑑賞の機会をどのように考えているか説明を加え、また先生方からは学校で実施してきた鑑賞行事に対するこれまでの経緯や、今回の応募のきっかけなどを伺うことで、児童生徒に本事業を通じてどのような体験をさせてあげたいかという方向性を確認していきます。学校ごとの地域性やカリキュラムの進度などにより、通常のプログラムからアレンジを加えたほうが良いと判断される場合は、こうした早い段階で先生方と相談していきます。

ワークショップ、本公演のタイムスケジュールほか、分かりやすくプリントを用意し、事業の流れを説明しています。ワークショップの前に子どもたちに歌を覚えてもらう必要があるため、音源や楽譜などを用意し、打ち合わせの際は可能であれば音楽専科の先生にもお立ち会いいただき、直接説明を重ねることもあります。また、ワークショップで学校を訪問するなかで、本公演に向けた事前調査を入念に行ない、本公演の運行に支障が出ないよう努めています。

本事業への申請理由

B区分で事業を実施するに当たっての工夫や実施体制

【公演団体名 オペラシアターこんにやく座】

<p>B区分で事業を実施するに当たっての工夫や実施体制</p>	<p>i) B区分に申請する理由</p> <p>オペラシアターこんにやく座は、創立以来50年継続して学校公演を実施しています。2003年より本事業にも携わり、継続的に採択いただいています。長年の公演活動を通じ、こんにやく座の名とともに本事業のことも多くの学校に知っていただく機会を得てきました。こんにやく座の演目を観たい、オペラを学校で実施したいとの問い合わせに、学校単体でのマッチングが主に予算の点から適わない場合は、積極的に本事業への応募を勧めてきました。先生方の、この演目を子どもたちに見せたいという熱意と、どの地域の子どもたちにも等しく観劇の機会を持つてもらいたい、また舞台鑑賞を素敵な体験として心に留めてほしいという私たちの思いを、本事業を通じ結びつけています。</p> <p>B区分採択は3年間同じ地域でのツアーとなりますが、文化を根付かせるためには長期的な取り組みが、その効果をより表すことを実感しております。その一例を挙げます。</p> <p>平成26～28年度にFブロックで巡回した滋賀県長浜市において、1年目に実施した学校の教頭先生が、翌年市内他校へ校長として赴任され、2年目に訪れた学校において再会しました。先の学校での実施を教育的観点から大変に有意義なものと感じていただいたようで、転任校で応募するほか、長浜市内の各学校にも周知して応募を促して下さったそうです。その流れから、3年目には同市内で新たに2校の子どもたちと出会いを実現することができました。長浜市教育委員会を訪れた際、こうした評判(経緯)を担当の方も耳にされていて、ワークショップや本公演を体験できる子どもたちが増えることをとても喜んで下さっていました。</p> <p>またもう一つの近例も特筆しておきます。昨年(令和2年度)、本作が巡回するD地区の学校に、過去に別作品(オペラ『ロはロボットのロ』)で巡回した学校が3校含まれておりました。コロナ禍により、学校カリキュラムの見直しから多くの学校が止む無く辞退されましたが、該当3校のご担当の先生はいずれも、過去の実施が子供たちにとって大変貴重な機会であったこと、だからこそ他の学校行事を取り止めてでも、本事業は子供たちの唯一楽しみとして何とか実施していきたいという思いを、実施の可否のご相談の中で知ることとなりました。体験を経ることが社会におけるあらゆる困難な状況を跳ね返す強さとなり、さらなる文化の積み重ねを生んでいくことを、子供にとって大切なものを守ろうとする先生方と共有してきたいと考えております。</p> <p>私どもはこうした経験を元に、また新たにB区分への申請を行ないます。長年の公演活動を通じ関係を築いてきた先生方、また芸術監督を務めていた林光が作曲活動と共に音楽教育を自身のライフワークにしていた経緯から、こんにやく座とも関係の深い先生方が全国に数多くいらっしゃいます。劇団や演目を信頼して子どもたちに舞台を届けることにご協力いただける先生方や教育委員会の皆様とのネットワークを活用し、私たちの演目に限ったことでなく良質で多彩な舞台芸術作品を子どもたちに体験させてあげることのできる本事業の取り組みを、いっそう広げていくことに臨みます。</p>
	<p>ii) 複数年にわたり同じ地域で実施する上での工夫や、公演及びワークショップの質を向上させるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施に際し、学校からの要望に応じ、近隣校や住民の方の参加を受け入れ、鑑賞体験を広く地域に浸透させることを目指します。経験より、児童生徒に限らず幅広く地域の皆さまにも鑑賞いただくことにより、地域内に評判が伝わり、翌年、翌々年に同地域を訪れた際に、作品のことや劇団のことを聞いていたという方と会う機会が幾度かございました。 ・ワークショップ、本公演前に稽古を繰り返す、質の向上を目指します。経年劣化の避けられない舞台セット・衣裳はメンテナンスを行い、最善の公演を提供できるよう努めます。 ・ワークショップの事前、当日、本公演の事前、当日の各段階において、子どもたちが修得すべきプログラムを設け、本公演に向かう期待感を高めます。 ・ワークショップでは、時間の最後に質問コーナーを設けます。実践に対する言葉による理解と定着を計り、また本公演、出演者に対するイメージを確立するねらいを持ちます。 ・本公演では学校からの要望に応じ、舞台設営(バラシ)の見学を行い、表現空間が作られる過程を体験してもらいます。鑑賞を多面的に感じる視点を養い、創意工夫の楽しさを実感してもらいます。 ・本公演後に、子どもたちの感想文ほか先生方からの感想も集約し、次年度へ反映させていただきます。 <p>iii) B区分団体が行う業務について(「6. B区分の団体のみが行う業務について」参照)の具体的な実施体制</p> <p>本事業担当(土居麦)を責任者とし、6名いる制作者、またワークショップ講師と分担して、地域の近隣校、教育委員会を訪問し、本事業の広報を行ないます。また地域メディアに、子どもたちに文化を届ける実践の様子を話題(記事)としてもらい、本事業の取り組みを紹介してもらうよう、計っていききたいと思います。</p>

リンク先	No.3	【公演団体名 オペラシアターこんにゃく座】
実施に当たっての会場 条件(その他)	<p>1/ピアノはフロアで使用します。所定位置がステージ上の場合、上げ下ろしのお手伝いを男性の先生方を中心に5~10人ほどお願いいたします。</p> <p>2/事前のピアノ調律を可能な限りお願いしております。(A=442Hz)</p> <p>3/幕張りのため、体育館天井の梁、バスケットゴール、ギャラリー、いずれかを必要とします。</p> <p>4/本公演当日、ステージは楽屋として利用します。ステージに緞帳がない場合、体育館近くの教室を1室お貸し下さい。</p> <p>5/体育館が2階の場合は基本条件より長めの仕込み時間が必要となります。</p>	

リンク先	No.3	【公演団体名 オペラシアターこんにやく座】
ワークショップ 実施形態の意図	<p>1/動きが独特で、すぐに真似をしてみたくなる「こんにやく体操」を導入に行なうことで、初対面の講師と子どもたちとの距離を一気に縮めるねらいを持ちます。かつ、無駄な力を抜きながらまっすぐ立つことを意識した体操から、こんにやく座が培ってきた日本語を歌う方法を子どもたちに分かりやすく伝え、各自が本来持っている声を引き出す準備運動を行ないます。</p> <p>2/短いひとつのシーンを、演劇で台詞だけで演じる場合と、オペラやミュージカルで台詞に歌がある場合の両パターン実演し、その違いを解説します。初めて目の当たりにする子どもも多いであろう“オペラ”への理解を促し、またこの後の時間で実践する、「歌いながら演じる」ことのイメージを膨らませてもらいます。</p> <p>3/本公演で共演してもらった場面を創作し練習していきます。児童生徒が本公演に参加する意識をしっかりと持ち期待を高めてもらえるように、言葉を添えながら実践していきます。</p> <p>①「森へ向かうソリの歌」は、銀色に輝く美しい景色をつぎつぎと後にしながら、ソリが宮殿から森へと向かう様子を歌った楽しい曲(場面)です。子どもたちは歌詞の内容を想像しながら体を弾ませて、出演者と一緒にソリに乗る姿を表現していきます。</p> <p>②マツユキ草を咲かせるシーンは、児童生徒ひとりひとりが事前に工作をして作ったマツユキ草を掲げることで会場全体が白い花の野原となる、とても美しい感動的な光景です。本公演では、子どもたちによる白い野原の間を、娘役の出演者がマツユキ草を摘みながら進み、感動を歌います。</p> <p>③「十二月の歌」はオペラ『森は生きている』を代表する劇中歌です。大人になっても忘れがたい曲を子どもたちに覚えてもらうことで、本事業での体験を一生の思い出にしていってほしいねらいがあります。劇中の音程は歌唱技術の未熟な子どもたちには少し高いので、音階を下げ、声を出す楽しさを優先しながらアンコールと一緒に歌えるように練習します。</p> <p>4/最後に児童生徒(また教師)から、この時間で体験したことに対する質問や意見を受ける時間を設けます。疑問を抱いたことをそのままにせず、また繰り返しの確認を言葉で行なうことで、理解の定着を計ります。</p>	

令和4年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演— 別紙②メンバー表
オペラシアターこんにゃく座
オペラ『森は生きている』

オペラシアターこんにゃく座

オペラ『森は生きている』 出演予定メンバー表

- ① 沢井栄次・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。洗足学園音楽大学卒業、二期会オペラ研修所マスターコース修了後、2008年入座。『森は生きている』一月・総理大臣役ほか多数のオペラに出演。
- ② 大久保哲・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。桐朋学園芸術短期大学芸術科卒業後、2016年入座。『森は生きている』二月・カラス役でデビュー。
- ③ 花島春枝・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。横浜国立大学大学院修士課程修了後、1998年入座。『森は生きている』三月・オオカミ役ほか多数のオペラに出演。
- ④ 泉 篤史・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。新潟大学卒業後、2015年入座。『森は生きている』四月・警護隊長役ほか多数のオペラに出演。
- ⑤ 冬木理森・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。東京学芸大学卒業後、2014年入座。『森は生きている』五月・ウサギ役ほか多数のオペラに出演。
- ⑥ 沖まどか・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。武庫川女子大学声楽学科卒業後、2009年入座。『森は生きている』六月・もうひとりのむすめ役ほか多数のオペラに出演。
- ⑦ 飯野 薫・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。桐朋学園芸術短期大学専攻科演劇専攻修了後、2012年入座。『森は生きている』むすめ役ほか多数のオペラに出演。
- ⑧ 鈴木あかね・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。東京芸術大学卒業後、1994年～2004年こんにゃく座に在籍、2013年再入座。『森は生きている』八月・女官長役ほか多数のオペラに出演。
- ⑨ 齊藤路都・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。武蔵野音楽大学卒業後、2009年入座。『森は生きている』九月・おっかさん役ほか多数のオペラに出演。
- ⑩ 熊谷みさと・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。東京学芸大学卒業後、2009年入座。『森は生きている』十月・女王役ほか多数のオペラに出演。

令和4年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演— 別紙②メンバー表
オペラシアターこんにゃく座
オペラ『森は生きている』

- ⑪大石哲史・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者。京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒業後、1981年入座。『森は生きている』十一月・兵士役のほか、こんにゃく座のほとんどの作品に出演している。また劇団内外で数多くのオペラ作品演出を手がけ好評を博している。
- ⑫佐山陽規・・・フリーの俳優。1972年よりオペラ小劇場こんにゃく座において13年間活動。こんにゃく座在籍中のステージ数は2000回以上に及び、また退座後も多くの作品に客演している。こんにゃく座以外の舞台では、東宝ミュージカル『レ・ミゼラブル』ジャヴェール役、ミュージカル『ピーター・パン』フック船長役など。2002年、ニューヨークとワシントンで上演された宮本亜門演出、S・ソンドハイム作曲『太平洋序曲』では米マスコミからも賛辞を得る。現在、桐朋学園芸術短期大学演劇科非常勤講師。
- ⑬榊原紀保子（ピアノ）・・・東京音楽大学卒業、同校研究科修了。2001年東京文化会館新進音楽家デビューコンサートオーディション合格。2005年JILA音楽コンクール室内楽部門1位、2006年大阪国際音楽コンクール2台ピアノ部門第1位。国内外の演奏家との共演も数多く、チェコの名門 Talich 弦楽四重奏団とは二度にわたり共演。アンサンブルピアニストとしての信頼は厚く多数のCDや舞台音楽の録音に参加。2003年からオペラシアターこんにゃく座ピアニストとして日本全国で演奏する。



オペラ 森は生きている

原作 サムイル・マルシャーク (湯浅芳子訳による)

台本・作曲 林光

演出 眞鍋卓嗣

“もえろ もえろ あざやかに” 月たちが歌う焚き火のぬくもりのなかで
〈むすめ〉はなにをもらったか？ 女王はなにを学んだか？

1992年の初演以来、時を経てもなお人々に愛され続けるオペラ『森は生きている』。
ロシアの森を舞台に一月から十二月までの〈月の精〉たちと人間たちが織りなす物語を
12人の歌手とピアニストによってお贈りします。

オペラシアター
OPERA THEATRE KONYAKOVA
こんにゃく座

オペラ 森は生きている

原作 サムイル・マルシャーク (湯浅芳子訳による)

台本・作曲 林光

演出 眞鍋卓嗣

美術 伊藤雅子

衣裳 山下和美

照明 金英秀

振付 白神ももこ

舞台監督 八木清市

音楽監督 萩京子

Illustration: ミロコマチコ

Title design: 片山中蔵

1954年戦後まもなく劇団俳優座によって「森は生きている」が日本初演された時、劇音楽を担当したのが当時22歳の林光でした。小さな子どもたちが「もえるもえるあざやかに〜」と歌いながら劇場をあとにする姿を見て、音楽を一生のしごとにしよと決めたといいます。こんにやく座が「森は生きている」をオペラとして初演したのは1992年。以来、大切なレパートリーとして上演し続けています。岡村春彦、高瀬久男、大石哲史演出を経て、2021年2月にこんにやく座創立50周年記念公演として、眞鍋卓嗣の演出によってオペラ『森は生きている』が生まれかわりました。子どもから大人まで、年齢を問わず楽しんでいただけるオペラです。



Photo: 前澤秀登

ものがたり

新しい年を迎える大晦日。年若い女王が、四月に咲くマツユキ草が今すぐ欲しいと言い出したために国中は大さわぎ。ほうびの金貨に目がくらんだ継母と姉娘のいいつけで、マツユキ草を採ってくるようにと、むすめはまっ暗な冬の森へ追いやられます。森の中では、一月から十二月の月の精たちが、たき火を囲んで新年を迎える儀式をおこなっていました。むすめの話聞いた四月の精は、他の月たちに頼んで一時間だけ「時」をゆずってもらいます。冬の森はたちまち春へと季節をかえ、むすめの目の前で一面にマツユキ草が顔を出します。むすめの帰りを待ちかまえていた継母と姉娘はマツユキ草を取り上げ、宮殿の女王の元へと向かいます。女王は、みずからマツユキ草を摘むために家来たちを引き連れて森へと出かけていきます。しかし、そこで待ちうけていたものは…。

アンケート

●8歳の娘と一緒に来ました。初めてのオペラに目をキラキラさせていました。すごい迫りにドキドキして感動しました。なんだか胸がとっってもあたたかくなりました。

●美しい情景が見えてくる曲に演劇が加わり、舞台セットと衣裳と出演者の方々とすべてが合わさって、そのようなオペラを見ることができてとても幸せでした。一緒に口ずさんで歌うことができるなんて夢のような時間でした。

●あらためて林光さんの音楽のすばらしさ、力強さを実感しました。アレンジ、演奏ともに上質な、ゆたかな、物語の世界観を表して本当にステキでした!!一瞬の今を生きなくては!!

公演評

●「十二月の月」など、オペラ全編にあふれる宝石のような歌たちが深く優しく語りかけてくる。それを聴きながら胸がいっぱいになった。しかも歌とセリフのひとつひとつが、今日的な鋭い問いかけとなって私たちに迫ってくる。

(うたごえ新聞 / 小村公次)

●自然と人間のあるべき姿を問う物語の主題は重いが、舞台の仕立ては軽やかだ。高慢な女王に家来たちは右往左往。月の精は、雪や桜、紅葉など春夏秋冬の色をまとい、絵本をめくるような楽しさも。自然の厳しさを知り、女王が改心していく展開は後味もいい。キャストたちの日本語歌唱は明晰で、言葉が耳と心にダイレクトに響く。分厚いハーモニーでもにぎらないのは、研鑽のたまものだろう。

(共同通信社 / 須田綾子)

オペラシアターこんにやく座とは…

こんにやく体操による身体訓練を続け、言葉(日本語)がはっきりわかるオペラを創作上演するオペラ劇団として1971年に創立。マイクを使用しない生の歌声、ピアノを主とした様々な楽器の生演奏による作品を多数上演している。歌役者の歌い語り演じる力によって、子どもからおとなまで楽しめる多彩な作品をレパートリーとし、年間約250公演を上演する。

オペラシアター
こんにやく座

〒214-0021 神奈川県川崎市多摩区宿河原 7-14-1
TEL: 044-930-1720 FAX: 044-930-1721
https://www.konnyakuza.com
e-mail: info@konnyakuza.com